

近畿運輸局【神仏習合の祈りの聖地、石清水八幡宮での空中茶室「閑雲軒」の復活と男山四十八坊の賑わい創造にかかると実現可能性調査及びプラン策定事業】（対象地域：京都府八幡市）



ミュージアムとしての価値

日本人の価値観を形成してきた千年に渡る「いのり」の記憶に触れる

「いのり」の語源
意 + 宣る (自分の意志や意図を宣言する)
生 + 宣る (自分の生きていく態度を宣言する)

石清水八幡宮は、過去の人々の生きる知恵である「いのり」の記憶に触れ、日本人が大事にしてきた価値観に立ち返る場所。外国人にとっては日本文化の背景にある考え方を学ぶことができる場所だと言える。それらの記憶を後世に伝えていくべき価値として掘り起こし、境内を楽しみながらめぐって「神仏習合」の本質に触れることができる体験を構築する。

石清水八幡宮の特異性
皇室から庶民に至るまで千年に渡り篤く崇敬されてきた場所

皇室から庶民に至るまで、森羅万象への感謝と畏敬の念を捧げ、老若男女・貴賤を問わず互いの幸せを祈り合い、つながりを築いてきた場所として世界的にみても特殊な場所である。

八幡信仰・神仏習合の重要性
日本人の根底となる精神性を形成してきた信仰

八幡神は日本で最も早く、日本古来の神と、外来の仏とを一緒に祀る「神仏習合」の形をとり、全国約4万社を占める日本で最も広く信仰された神として、多くの日本人の価値観の基礎となってきた。

ユニークベニューとしての価値

神仏を五感で感じ、祈りを通してつながり合う

男山の鎮守の森と祈りの空間で神仏を五感で感じる

石清水八幡宮では、男山の鎮守の森が『神仏習合のゆりかご』となり、神仏を不可分なものとして融和させてきた。その神仏習合を育ててきた神聖な鎮守の森と本社をはじめとする祈りの空間で、神仏を五感で感じることができる体験を構築する。

祭祀と神人共食の宴を通じて平安を祈り合い、つながり合う

石清水八幡宮は、信仰の壁を超えて、生きとし生けるものの平安と幸福を祈り合い、「宴」によって人と人、人と人のつながりを築いてきた場所。その価値を、世界の人々が人種や宗教を超えて、親睦をはかることができる祭祀と宴の場によって引き出す。

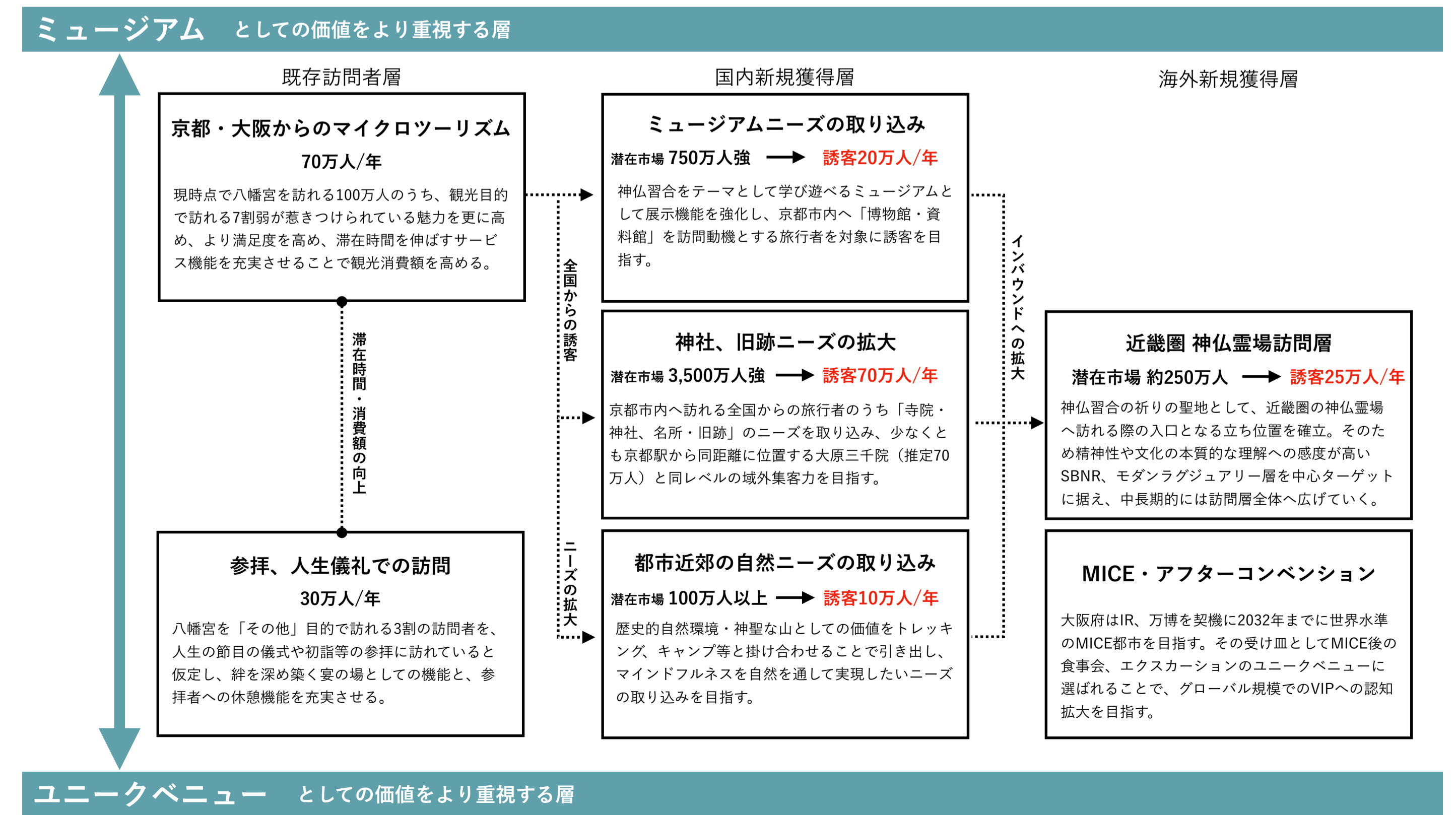
「神仏習合の祈りの聖地 石清水八幡宮」

石清水八幡宮の唯一無二の特徴は、千年以上もの間、祈りの中心である【神社】と、かつて存在した仏教施設群の【史跡】が、広大な【鎮守の森】とともに男山に渾然一体となって、祈りの聖地を形成してきたことである。それらが持つ潜在的な価値を、神仏習合の精神に楽しみながら触れることができる「ミュージアム」と、男山と文化財の祈りの空間で特別な時間を過ごす「ユニークベニュー」として位置づけることで引き出し、これらの資源を持続可能に再生・保全していくことができる観光誘客力の高いレガシーの形成を実現する。

※石清水八幡宮は全域が史跡に指定されている(展望台エリアを除く)。そのため、活用には遺構の保護が大前提となる。

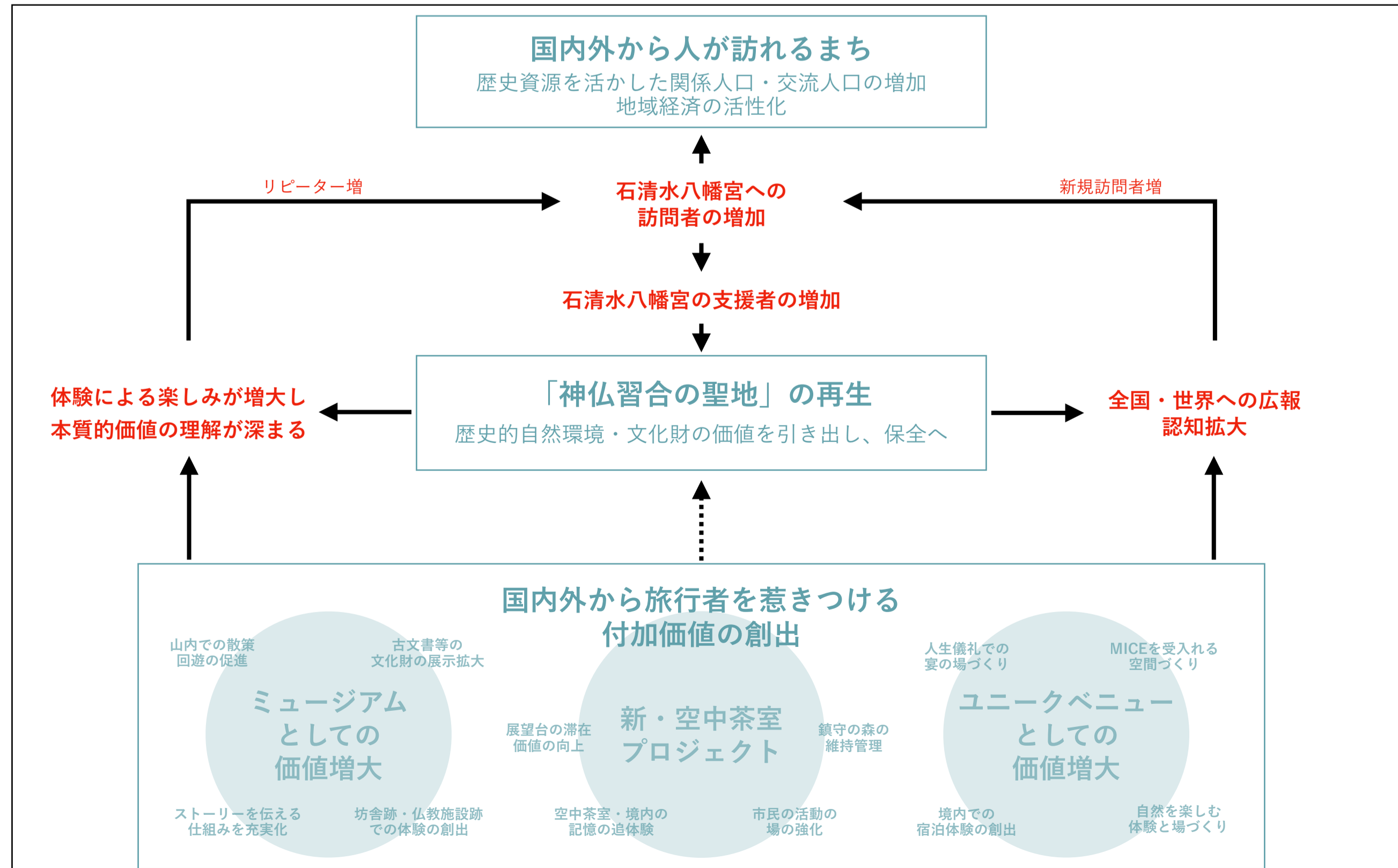
ターゲット

「ミュージアム／ユニークベニューのニーズを軸とした国内・海外層への拡大」225万人



目的/生み出す好循環

「レガシーの形成による神仏習合の聖地の再生、国内外から人が訪れるまちへ」



近畿運輸局【神仏習合の祈りの聖地、石清水八幡宮での空中茶室「閑雲軒」の復活と男山四十八坊の賑わい創造にかかる実現可能性調査及びプラン策定事業】（対象地域：京都府八幡市）

計画の全体像

6つの事業が相互に作用し、認知度が高まり、国内外から人を惹きつける「神仏習合の祈りの聖地」を形成する。市民の誇りの醸成とともに、賑わいにより地域経済が活性化し好循環が生まれる。
※全域が史跡(展望台エリアを除く)。活用には遺構の保護が大前提となり、整備基本計画立案が必要。



事業性の調査

石清水八幡宮とその門前町は、国際的にもアピールできる日本を代表する資源である。しかしながら、その価値を市民をはじめ国内外の人が再認識する機会が乏しい。**市民及び地域関連事業者等を巻き込む運動が必要**である。

先の①~④で示した事業計画は、その機会を提供する機運向上と八幡市の抱える課題解決に寄与することが期待されるため、**社会的効果が高いと評価**できる。この事業計画を実現するには、非収益事業の部分も有することから、行政と民間の連携が必須となる。初動部分で戦略的に行政主導のもと事業環境を整え、全体の事業マネジメントを行う機能を導入し、そのうえで民間が主体となって**投資・回収バランス**を見ながら事業が発展することで成立する計画となる。

この事業計画の「事業性」を評価すると、民間事業が自走が期待できる①~④、自治体の補助が望まれる⑤、自治体の主体的な推進が望まれる⑥という事業の性質に整理され、これら6つが連動することで得られる本計画の社会的効果は、八幡市の地域経済活性化に寄与すると評価できる。これに加えて貨幣換算しにくい「文化の保存・活用」「人口減少への対応」への効果も期待できるものとなっている。

このことから、本事業は、**事業性を有すると評価**することができる。

個別事業の評価	個々の事業の現状と整備費			評価(個別)		
	規制のハードル	現利用との調整難易度	想定投資額(整備費+税抜き)	個別での投資と回収バランス	社会的効果	事業のタイプ
① 境内への入口を形成する門前町の物件活用	中	中	108百万円	A	b	民間事業で自走
② 門前町の賑わいの中心となる頓宮の活用	中	中	272百万円	S	a b c d	民間事業で自走
③ 門前町沿いの重要物件の活用	小	小	156百万円	S	a b c d	民間事業で自走
④ 研修棟の活用による滞在価値の創出	小	小	637百万円	S	b	民間事業で自走
⑤ 坊舎跡・仏教施設跡の活用と散策路網の再生	大	小	1,172百万円(内頓宮の復元800百万円含む)	C	a b c d	自治体が民間事業を補助
⑥ 新・空中茶室プロジェクト	大	大	273百万円	B	a b c d	自治体事業等を推進

①~⑥合計 2,620百万円
自治体負担 ⑤の一部+⑥

S: バランス大
A: バランス中
B: バランス小
C: バランス無
(但し条件付きあり)

a: 文化継承
b: 経済効果
c: 認知度向上
d: 誇りの醸成

社会的効果

a. 石清水八幡宮や東高野街道古民家の文化継承
b. 地域経済の活性化
経済波及効果 768百万円/年
雇用創出(105人) 人件費171百万円/年
域内調達増加(食品仕入れ) 食材費125百万円/年
消費額向上(ホテル・キャンプ) 38百万円/年
c. 世界から「神仏習合の聖地」として認知 → 定住・関係人口増加
d. 八幡市民の誇り醸成

公共施設としての費用便益分析
Benefit: 計14,932百万円 / Cost: 計9,389百万円 = 1.59 > 1
※Benefitは旅行費用法(交通費×想定訪問者数)
Costは⑤の整備費一部補助分、⑥の整備費及び50年間の想定維持管理費より算出

事業性あり

山下・門前町

1 境内への入口を形成する門前町の物件活用

門前町の「俗」の賑わいを形成する

- 駅前まちなみ再生**
前面の看板を剥がすなどして修景、和風建築の3軒はそのファサードを活かす。テナント誘致のためにスケルトン化をおこなう。
- 放生川沿いの門前町のまちなみ再生**
一ノ鳥居の参道入口に位置し、使用されていない物件をピックアップし、1階部分表面の修景と、テナント誘致のためにスケルトン化をおこなう。



2 門前町の賑わいの中心となる頓宮の活用

俗から聖へ、参道を登る期待感を生む

- 頓宮齋館:頓宮の見学とコンシェルジュデスク**
建物見学、石清水八幡宮や男山四十八坊等に関する導入映像やパネル展示を通して、価値を紹介する。参道に向かう前に気持ちを高める演出も検討する。



門前町と一体となり賑わいを形成する

- 頓宮齋館:門前町にひらき、人と人をつなぐ宴の場**
神と人、人と人がつながる宴の空間として、飲食を通じてまちに広く開放し、活用する。
- 頓宮参集所:心身を整え山上へ参拝する宿泊体験**
頓宮を宿泊の起点として山上上がり、夜の本社を特別に参拝するなどの体験を日数等限定的に提供する。



3 門前町沿いの重要物件の活用

門前町に残る重要物件の保全を通して物語に触れる

- 旧社司住宅を歴史に触れる宿泊施設として活用**
改修により古民家の宿泊施設として蘇らせる。泊まりながら、門前町-頓宮-山内-本社と一連の歴史やつながりを感じていただく。
- 蔵を社司の歴史に触れる場として公開**
通常時は宿泊者限定で公開し、日程限定で石清水八幡宮への参拝客や地域の人にも見学してもらえよう公開方法を取る。



展望台

6 新・空中茶室プロジェクト

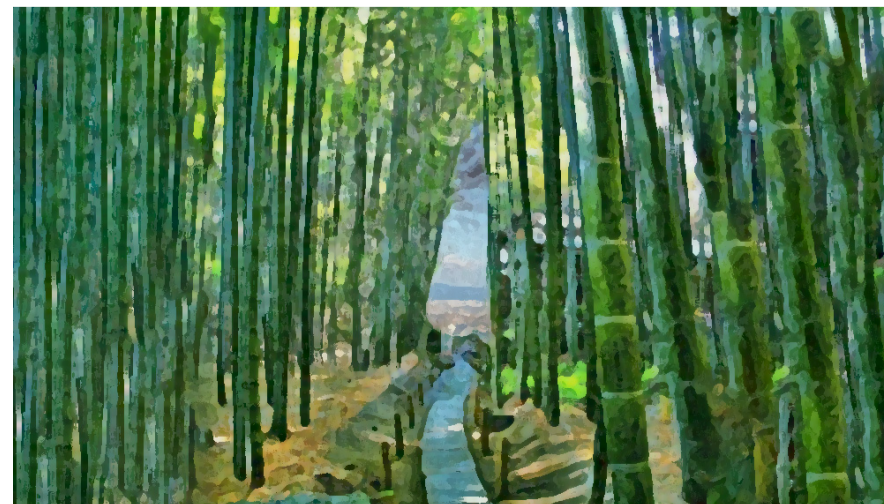
対象地に掛かる法規制によって、民間のみでの活用は難しいと結論づける。また、民間による収益事業は園地整備によって空間全体を滞留しやすくなる場所にするのが不可欠である。したがって、実現においては、「公設民営方式」を軸にそのパターン検討を行った結果をもとに、今後の取り組みを進める。
※史跡の範囲外であるが、整備には史跡に準ずる埋蔵文化財の保全が求められる地域であるため、その調査、保全が大前提となる。

展望台上面への園地整備

景観の統一と風景の価値をあげる「展望デッキ」
竹の景観の連続性をつくる「竹林の小径」

展望台下を憩いの公園と市民が活動する拠点として整備

竹と花に囲まれた「展望下テラス」
市民のクラフト・まちづくり精神を創る「シェア工房」



施設地区

4 研修棟の活用による滞在価値の創出

訪問客をもてなす休憩機能/展示機能の強化

- 本館 2F:ロビー、大研修室の改修によるカフェバーと展示空間の設置**
ロビーは参拝客の休憩場所や宿泊客のラウンジとしてカフェバーの機能を置き、展示と一体となった空間設計とする。展示会やレセプションパーティ等による活用も想定。

人生の節目を祝う場としての有効活用

- 本館 1F:食堂の改修による「祝宴」機能の強化**
研修棟 本館の食堂の改修により、食事会場・宴会場の機能を強化し、「祝宴」をおこなえる設備を整える。MICEの受け入れも想定する。

遠方客をひきつける宿泊滞在価値の創出

- 宿泊棟:宿泊棟の改修による遠方客の受け入れ**
宿泊ニーズを満たすスペックを持つ客室へ改修を行う。境内全体での滞在によって高付加価値な宿泊体験を生み、神仏習合の深い理解を促す。



坊舎跡・仏教施設跡

5 坊舎跡・仏教施設跡の活用と散策路網の再生

レガシーとなる歴史的建造物の再現検討

- 空中茶室「閑雲軒」を含む瀧本坊の復元**
復元の実現までは長期間を要することから、短中期的に様々な体験を通じて復元プロジェクトの認知を高め、共感・応援を呼ぶ。

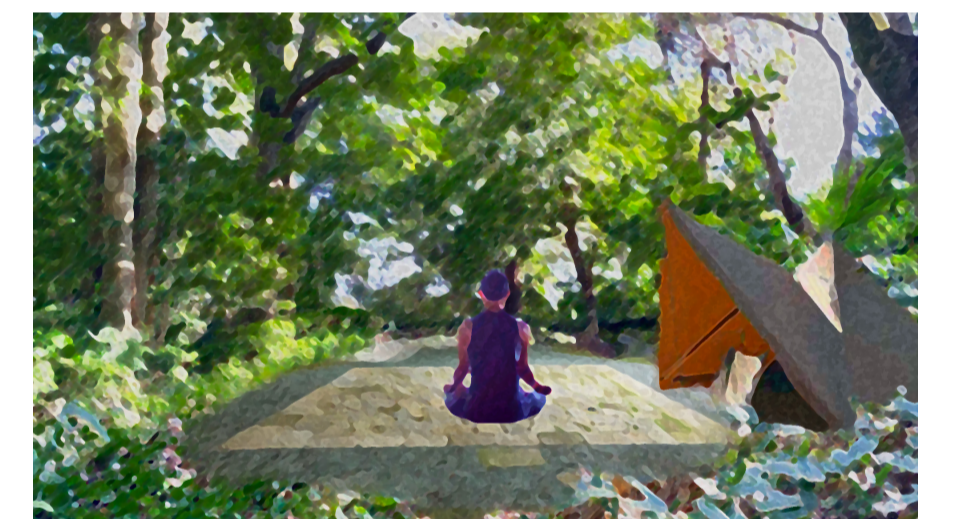
坊舎跡・仏教施設跡を活用して往時の体験を再現

- 坊舎跡の平面整備と体験による活用**
遺構に影響を及ぼさずに活用できるよう、坊舎跡の平面を整備し、古い記録からわかる歴史や営みを基に、坊舎跡・仏教施設跡に体験として復活させる。

散策路網を再生し、山内をめぐる価値を生む

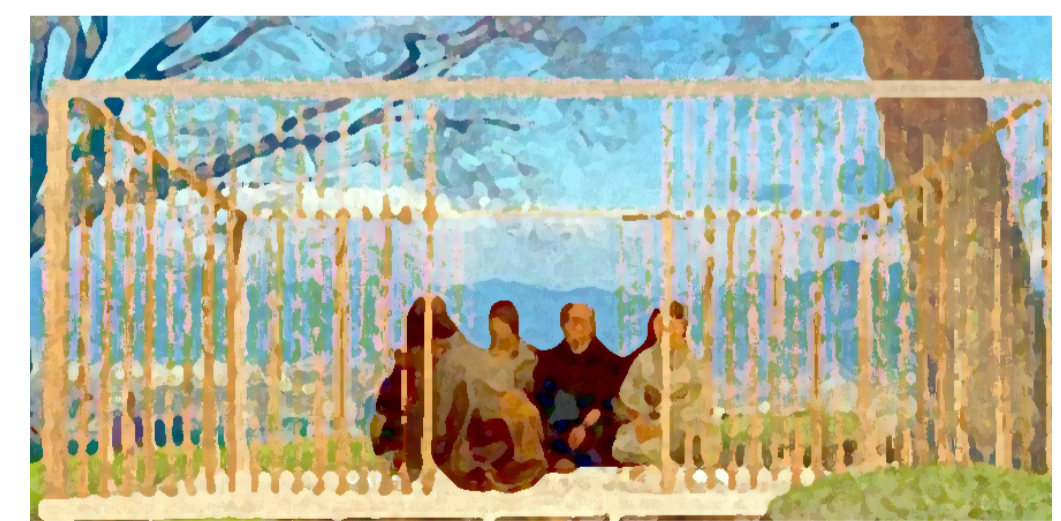
- 坊内通路を散策路として整備**
坊内通路の整備により、参道から眺めることしかできなかった坊舎跡へアクセスを築く。コンシェルジュデスク、オーディオガイドとの連動で回遊性を更に高めていく。

※整備基本計画の立案が必要



かつての坊の世界観を体感するエデュテインメント施設

「屋外茶室」
平安京と比叡山を眺め、裏鬼門を守護する石清水八幡宮を感じる
竹のフレームで建造した屋外茶室を設置する。配置を鬼門方面に振り、平安京・比叡山の風景を眺めながら空中茶会の体験を行う。



「MR 茶室」

かつての坊舎の世界観を追体験できる庭園と建物/複合現実技術で「閑雲軒」でのかつての体験を再現
坊舎の世界観をイメージさせる。門をくぐった先には庭園が広がる。VRでの空中茶室の復元、MRの体験に発展させ、五感に訴えかける疑似体験できるプログラムとする。

